

やまだんの 山田野

20

独立行政法人
国立病院機構 北陸病院

〒939-1893 富山県南砺市信末5963
TEL 0763-62-1340 FAX 0763-62-3460

新年度を迎えるにあたり

新年度を迎えるにあたり一言ご挨拶を申し上げます。

この原稿を書いている3月26日の朝、白いベールに病院全体が覆われていました。春の足音が近づいては遠ざかる日々が続き、病院の門から玄関に通じる桜並木も弥生の粉雪に蕾は固く閉ざしています。それでも4月に入り各部署で歓迎会が開かれる頃には院内のいたるところで薄桃色の花吹雪が見られるでしょう。昨春にはここ城端と岩手の花巻とで私は2度花見をしましたが、1年の過ぎ去る速さには驚かされます。このようにうつろいながら「四季折々の自然に抱かれた医療空間」に当院は存在します。そして厳しい冬の間に深い雪の下で春の芽吹きが準備され、必ず巡り来る恵みが約束されているところ、この自然との融和が人の心にも温かさや謙虚さをもたらすものと感じています。

さて、当院の所在する南砺市は高齢化率が30%を超える地域で、一人暮らしの高齢者が2千人ほどおられるそうです。そして85歳を過ぎれば3~4人に1人の割合で認知症になることが知られている一方、現代の医学を持ってしてもまだ根本的に治す薬はありません。本人も家族の方も何が起きているのかわからないまま、いつの間にか不安と困惑そして混乱の渦に巻き込まれてしまっていることがあります。そこで一人でも多く少しでも長く自立した生活を楽しむことができるように、その手助けのためにと微力ではありますが当院では本年4月から県の指定を受けて認知症疾患医療センターを開設します。「例え認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる」ことを目指して、

1)「情報センター業務」として、認知症という病気および認知症の方について正しく理解していただけるよう研修会や普及啓発活動などの情報発信を行いながら、地域住民の方々からのよろず相談にもできる限り対応してい

きます。

2)「専門医療の提供」として、主に神経内科で早期かつ正確な診断をもとに認知症の基本的な理解をすすめる、精神科では認知症に伴う様々な心理・行動面での障害への適切な対応を目指します。

3)「地域連携の強化」として、地域包括支援センターなどの地域の行政、病院や医院などの医療機関、種々の介護サービス機関などとの連携をより密接により円滑に進めていきたいと考えています。そして認知症者および家族の方を包む全人的な地域のネットワークの構築を目指して、これまで以上に安心して相談・受診しやすい地域に開かれた病院となるよう努めていく所存です。

また認知症者の急増に加えて、ストレス社会のなかで精神疾患全体の患者数が増加していること、および長年にわたり自殺者数が3万人を超える異常事態が続いていることなどのため、医療計画を策定する上で優先順位の高いものとして、4疾病の「がん、心筋梗塞、脳卒中、糖尿病」に精神疾患が加わった5疾病5事業（救急医療、災害時における医療、僻地の医療、周産期医療、小児医療）が昨年厚労省よって位置づけられました。それを基に平成25年4月からは新たな医療計画が県によって開始されると聞いています。当院は昭和44年以来、地域および県全体の精神医療の一翼を担ってきましたが、今後も精神科救急への参画をはじめ地域において良質で基本的な精神医療の提供を行っていきたくと考えています。さらに重症心身障害、神経難病、医療観察法などの政策医療分野や睡眠医療においても、「生命と人権を尊重し、思いやりに満ちた医療を良心と誠意を持って実践する」という当院の基本理念を実現できるよう励んでいきます。

(副院長 坂本 宏)

「老化によるもの忘れ」と「認知症によるもの忘れ」

統括診療部長 吉田 光宏

北陸病院では、予約制でもの忘れ外来を行なっていますが、受診される皆さんは、かなり認知症症状が進行してから受診されているようです。金沢大学病院や公立松任石川中央病院で「もの忘れ外来」をしている時は、もっと軽症の段階で受診される方が多い印象です。

皆さんは、癌や高血圧、糖尿病などは、健康診断を受けて早期発見し、早期治療をすると思いますが、認知症はなぜ、悪くなるまで放置しているのでしょうか。今は、認知症も早期に発見し、進行を遅くする薬を飲み、介護者はケアの方法を学ぶことにより、良い状態のまま自宅で長く過ごせる時代です。癌やほかの成人病同様、認知症も早期発見・早期治療を心がけましょう。

ボケ 発見チェック項目

時間や曜日を何度も尋ねる

新聞やカレンダーを見て知っているのに、確認することが多い。

大事なものをよくなぐす

財布、免許証、眼鏡、補聴器、診察券などをなくして探す。誰かがとったと騒ぐ。

大事なことや約束をよく忘れる

買い物に行き、何をかうか忘れてしまう。同じものを買ってしまう。

意欲が低下する

これまで出ていた会議などに参加しなくなる。風呂や着替えを嫌がる。

料理のレパートリーが少なくなる

味付けが濃くなったり、献立に合わせた材料を買えない。

簡単なことを決断できない、時間がかかる

会合の段取りができないなど、複雑なことを同時に考えられない。

誰でも、子供でも「人の名前を思い出せない」「ものをどこに置いたか忘れてしまう」といったもの忘れはあるものです。しかし、こういったことが頻繁になると認知症の疑いが出てきます。老化現象によるもの忘れでは、記憶自体がなくなってしまうわけではなく、記憶されている情報にアクセスがうまくいかな

くなる状態で、ヒントを与えられれば、思い出せます。アルツハイマー型認知症によるもの忘れでは、短期記憶に重要な役割をはたしている大脳の側頭葉内側にある海馬が萎縮して、新しい記憶が保持できなくなります。

そのため、最近のことは記憶できず、思い出せませんが、昔のことはよく覚えていられます。昨年と比べて、もの忘れがあったりできないことが出てきたり、変わった様子があれば、早めに受診しましょう。

もの忘れが気になったり、認知症が疑われた場合は、「もの忘れ外来」や「メモリークリニック」が開設されている専門医療機関（精神科、神経内科、老人科など）を受診しましょう。認知症は、初期段階での診断が難しいことがありますし、本人が受診するのを嫌がる場合は、かかりつけ医に相談し、かかりつけ医を通じて、専門医療機関を紹介してもらうとよいでしょう。

もの忘れ外来では…

認知機能検査

簡単な質問により記憶力低下がないか見ます。異常が疑われればより詳しい検査を行います。

神経学的検査

診察で麻痺や手の震え、歩行障害などがいないか調べます。

血液検査・尿検査

腎臓病や肝臓病、ビタミン欠乏、甲状腺の異常が、もの忘れの原因となっていないかを調べます。

画像検査

頭部CT/MRI：脳の萎縮や脳血管障害を調べます。
脳血流SPECT：脳血流の低下部位から認知症の鑑別診断を行います。

心筋MIBGシンチ：レビー小体型認知症の可能性がないか心臓の交感神経機能を調べます。

神経生理学的検査

睡眠ポリグラフィー：睡眠時無呼吸が認知症に合併していないか調べます。

脳波：脳の働きや特殊な認知症などがいないか調べます。

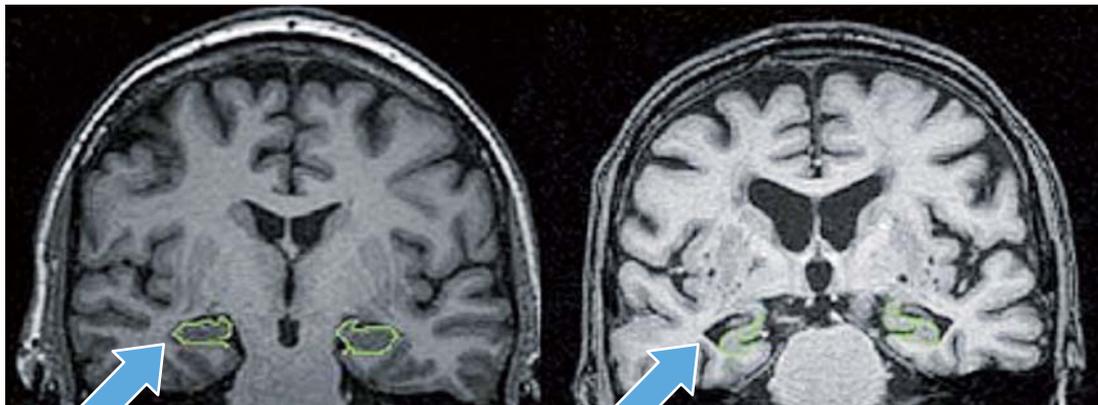
「もの忘れ外来」では、最初は問診で医師が症状を確認します。日常の様子を詳しく客観的に伝えるために、できるだけ本人と同居している家族が付き添ってください。いつもご

ろから何が起こったか、気になる症状や具体的な失敗事例などの経過を整理したメモを持っていくとスムーズに診察することができます。ほかの病気や薬の副作用で、一時的に認知障害が出ている場合もあるので、今までの病歴や、お薬手帳があれば忘れずに、服用中

の薬剤名を伝えることも大切です。

今まで本人の不可解な言動に悩んでいた家族が、原因を理解することにより気持ち楽になり、とてもよい関係になる場合があります。困っていることがあれば対応策などのアドバイスもしています。

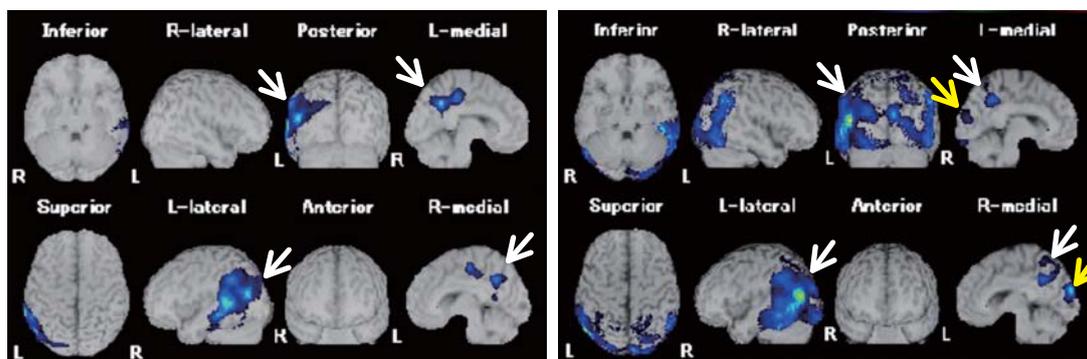
海馬の萎縮



正常な高齢者

アルツハイマー型認知症

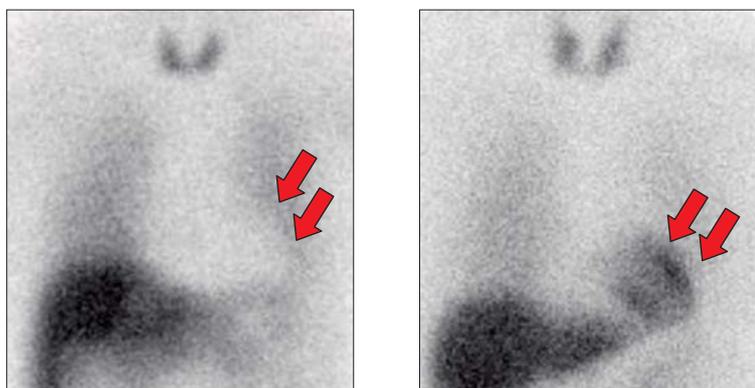
認知症によって脳血流低下部位が違う



アルツハイマー型認知症

レビー小体型認知症

シンチで検査異常が出る



レビー小体型認知症

アルツハイマー型認知症

※レビー小体型認知症では、心臓(矢印)に検査薬が取り込まれない。

WLB(ワークライフバランス)伝達講習と 講習後のアンケート結果について

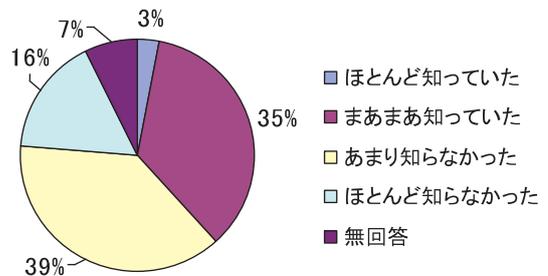
当院WLB推進プロジェクトチームは、平成23年8月3日～4日に富山看護研修センターで行われた、WLB推進ワークショップでの当院のインデックス調査結果を当院職員に伝達するため、3日間に渡り伝達講習を行いました。参加状況は看護課68名、診療部・企画課20名の合計88名で、内容としては、①インデックス調査結果、②制度の理解（休暇・休業制度）、③プロジェクトチームの今後の計画についてです。③ではワークショップの中で、アクションプラン（自分のために休暇をとり、リフレッシュすることで、病院の将来に希望がもてる職場風土を醸成することを目指す）も立案しています。

その後、アンケート調査を実施しました。アンケート調査の内容は、①制度について知っていたか、②伝達講習で制度について知ることができたか、③制度を利用したいか、④伝達講習に対する意見、⑤お互い様風土作りについてのアイデアなどで、看護課の68名を対象に実施しました。以下に、Q&Aも含めたアンケート結果について報告します。

①制度について知っていたか

ほとんど知っていた：2名
まあまあ知っていた：24名
あまり知らなかった：26名
ほとんど知らなかった：11名
無回答：5名

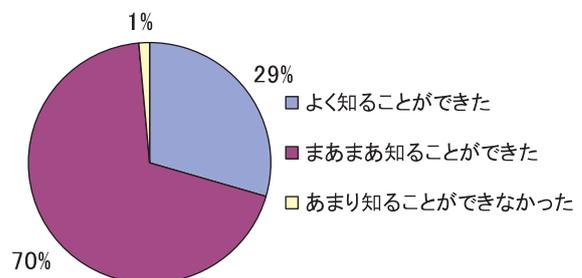
制度について知っていたか



②伝達講習で制度を知ることができたか

よく知ることができた：20名
まあまあ知ることができた：47名
あまり知ることができなかった：1名

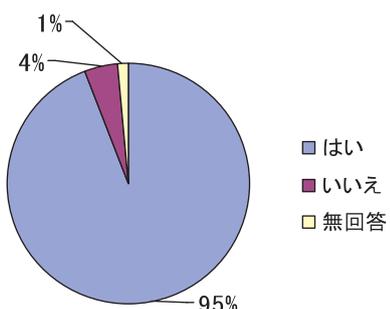
伝達講習で制度を知ることができたか



③制度を利用したいか

はい：64名
いいえ：3名
無回答：1名

制度を利用したいか



④伝達講習に対する意見

- ・説明してもらうことで分かりやすかった
- ・休暇がとれるよう風土作りが出来ると良いと思う
- ・誕生日年休は期待しています
- ・当院が家庭と仕事を両立する上でとても良い環境にあると感じた
- ・介護休暇を今後とりたい、デイサービス時の準備があるため

など

⑤「お互い様風土作り」についてのアイデア

- ・協調性がもてる環境作り、目配り、気配り、心配りに向けての再考が必要
- ・レクリエーションの実施
- ・予定があれば早くに伝えるとお互い様の気持ちが高まる

など

Q&A 質問にお答えします

Q：計画が動いたとき、日々の業務にも負担がかかるのではないかと心配です。

A：日々の業務に負担がかかることや、患者様に影響を与えるようなことは問題です。ただ、日々の業務で工夫できる部分は工夫する、これはできるのではないかと思います。

各病棟の師長・副師長の手腕も関係します。また、スタッフからの「こうしよう」と工夫した意見を言い合える環境作りが必要ですね。

Q：地域の祭り等の休暇もほしい。

A：まずは、誕生日休暇、次にこどもの誕

生日休暇の取得を考えています。

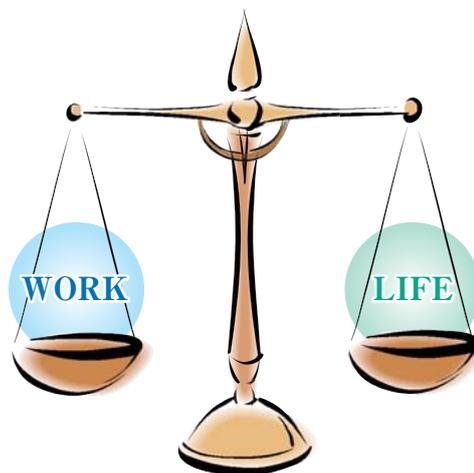
地域の祭り等の休暇は、日が決められているため、その地域のスタッフが多いと難しいと思います。

誕生日休暇は、誕生日月に取得ということで幅があるため、比較的とりやすいと思われます。

Q：夏期休暇以外に、年に1回は年休と週休を併せて5日連続の休みが取得できるリフレッシュ休暇の新設。同僚との旅行・趣味の充実・一人旅など、あくまで業務に支障がない限りが前提ですが…。

A：WLBの点で良いアイデアだと思います。各病棟で話し合いみんなが重ならないようにとれるようならいいと思います。週休・代休・年休を続けて連休にするなど看護師長の手腕もあると思います。

(1病棟師長 山田 早苗)



外来担当医表

項目	月	火	水	木	金	
精神科・神経科（初診）	市川・坂本	坂本・市川	白石・坂本	石崎・村田	細川・白石	
精神科・神経科（再診）	石崎・立脇	白石・池田	村田・立脇	市川・池田	池田・立脇	
神経内科	吉田	小竹	吉田	吉田	小竹	
内科	戸部	渡辺	戸部	大浦	戸部	
専門外来	睡眠（初診）		古田	古田 ※②		
	睡眠（再診）		細川	戸部	古田	
	もの忘れ	●受付・診療時間・・・8:30～11:30 ①診察は完全予約制となっております。地域医療連携室にご相談ください。 ②睡眠外来ではセカンドオピニオンも実施しています。（水曜日午後） 【地域医療連携室 直通電話】0763-62-1950				
	パーキンソン病					
	物質使用障害					
	重症心身障害					

認知症疾患医療センター開設

当院では、これまでも認知症の相談や治療を行なってきましたが、平成24年4月から、認知症疾患医療センターが新たに開設されました。

センターでは、

- ①専門相談（初診前からその後まで継続的な相談）
- ②鑑別診断・治療方針の選定（精神科・神経内科・内科が対応）
- ③心理・行動の障害への対応（状態により他医療機関へ紹介）
- ④地域との連携・研修会等の開催（認知症に関する普及啓発活動を含む）

などを行います。

お問い合わせやご相談はお気軽に地域医療連携室までお願いします。

（精神保健福祉士 山田 敦子 土谷 真美）



【交通アクセス】

◆交通機関

JR城端線、城端駅より、タクシーで約5分。

◆高速道路

東海北陸自動車道、福光ICより約5分。

◆南砺市コミュニティバス

JR城端駅・福光駅より出ています。



独立行政法人 国立病院機構 北陸病院

〒939-1893 富山県南砺市信末5963

TEL 0763-62-1340 FAX 0763-62-3460

ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~hokuriku/>

【編集・発行】北陸病院

【広報担当】石崎・上野・前田